

北海道浮魚ニュース

平成17(2005)年度5号 (通巻 No.194)

2005年6月27日

北海道立水産試験場

ホームページ：http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

道南太平洋スルメイカ北上期調査結果

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：2005年6月20日～6月24日
 - ・調査海域：道南太平洋（渡島半島沖～日高沖～下北半島沖）
 - ・調査船：金星丸（イカ釣機5台、イカ用集魚灯20灯装備）
- 昨年（2004年6月21～25日）のデータと比較しました。

分布密度は非常に低く、魚体サイズは小型。

1. 水温分布（図1、2）

表面水温は、14.2～14.8 の範囲（St.15を除く）にあり、昨年に比べ St.1 と St.13 では1.1～1.3 高く、他は低い値を示してました。深度50m層の水温は、7.5～11.5 の範囲（St.15を除く）にあり、昨年並み～若干高めの値を示してました。

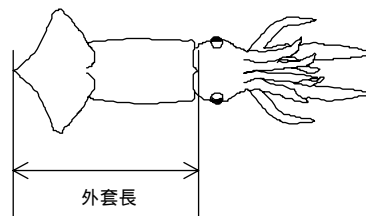
浦河沖の St.15（例年の漁獲調査点）では、表面水温 8.5、50m層 10.3 であり、この時期のスルメイカの漁獲適水温（表面で10以上）を下回ったため、昨年と同様に漁獲調査点を St.13 へ移しました。

2. 分布密度（図1、2、表1）

漁獲調査は4地点（St.1、8、13、16）で実施し、漁獲があったのは St.1 と St.16 でした。CPUE（2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）は、それぞれ0.1と3.9 でした。また、平均 CPUE は2.0 であり、平成10年以降のデータでは2番目に低い値でした。

3. スルメイカの大きさ（図1、2、表1）

スルメイカの外套長（胴長）は、12～17cm（昨年13～21cm）の範囲にありました。モード（最も多く漁獲されたイカの大きさ）は14cm にあり昨年（モード18cm）に比べると、非常に小型の群で占められてました。



4. まとめ

道南太平洋におけるスルメイカの分布状況は、分布密度が非常に低く、魚体は昨年よりも小型であると考えられます。

（文責：函館水産試験場資源管理部、TEL：0138-57-5997 直通、FAX：0138-57-5991）

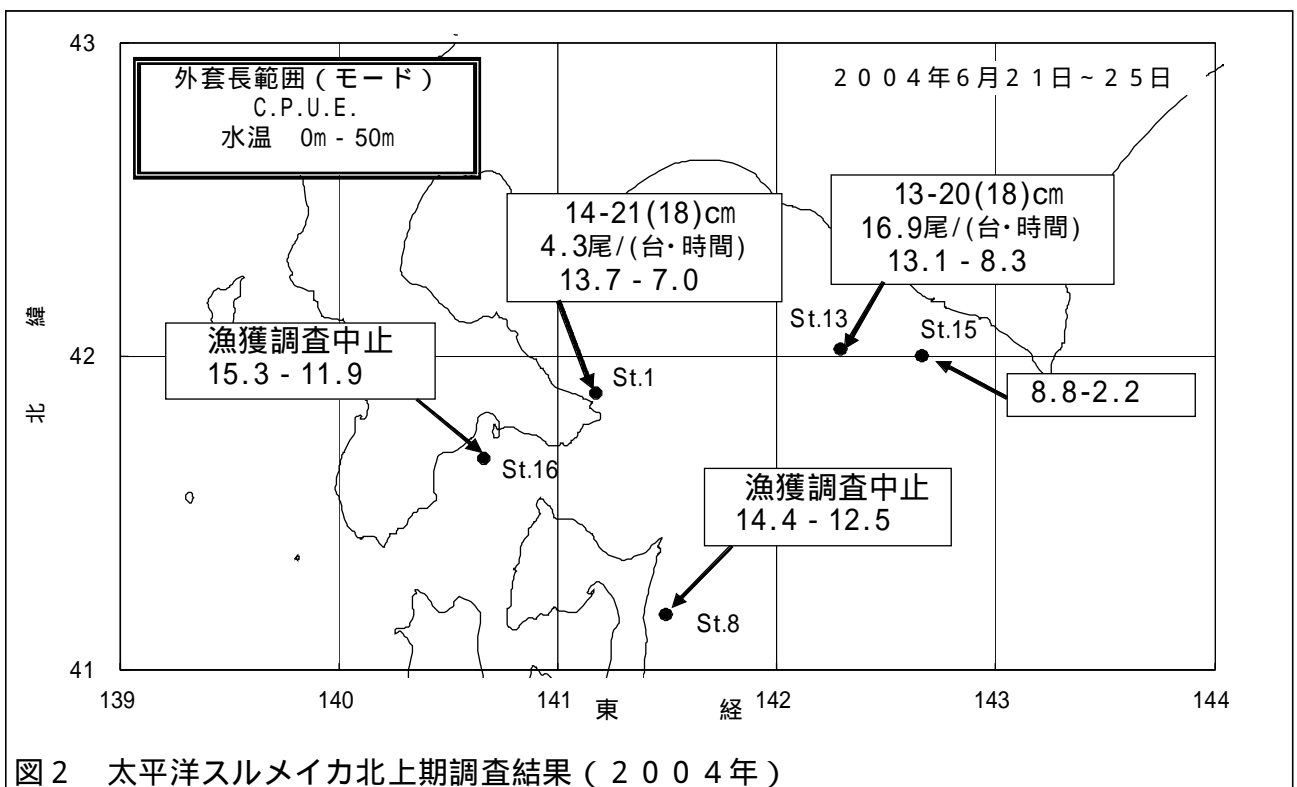
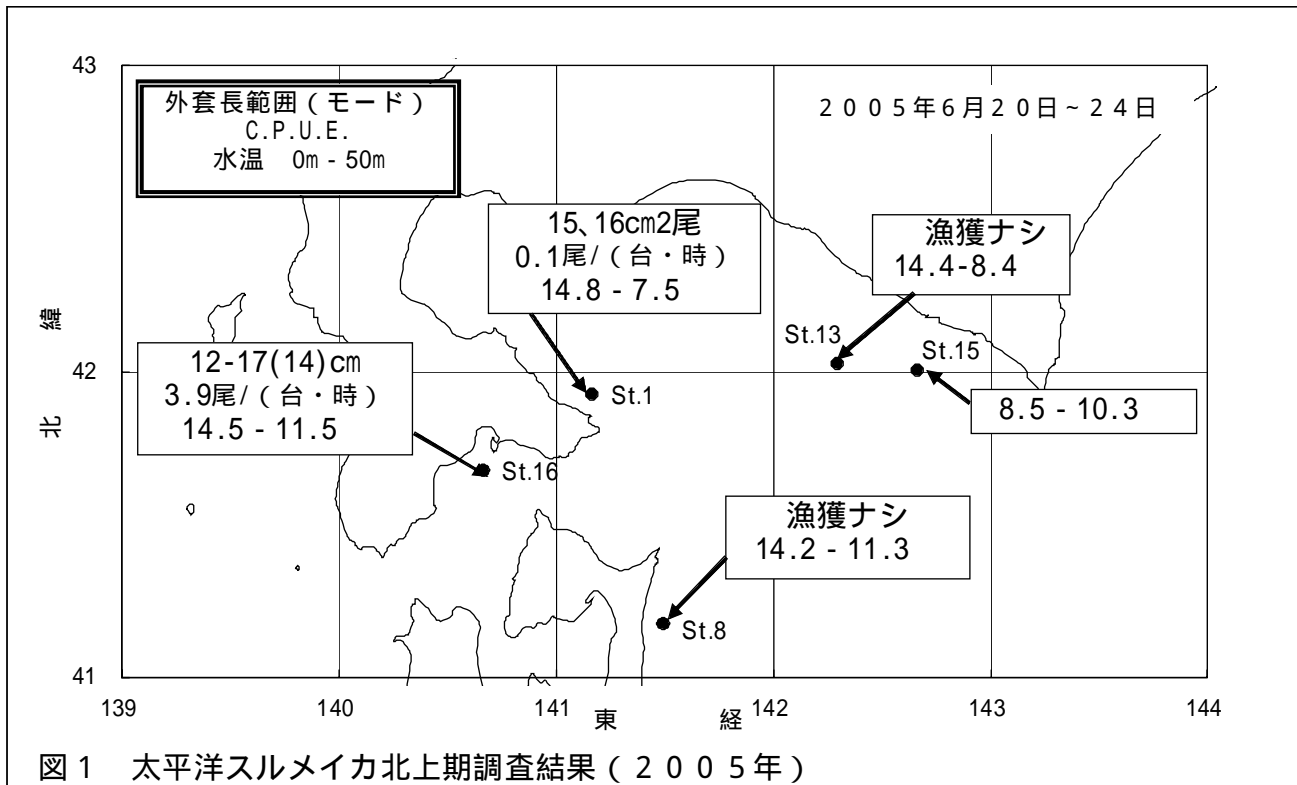


表1 道南太平洋スルメイカ北上期調査時のC P U E と外套長の経年変化

	1998(H10)	1999(H11)	2000(H12)	2001(H13)	2002(H14)	2003(H15)	2004(H16)	2005(H17)
4調査点の 平均C P U E (尾/台・時間)	6/29-7/7 2.9	6/28-7/8 1.1	7/3-7 17.9	7/2-5,9-13 116.6	6/24-28 4.4	6/23-27 4.6	6/21-25 10.6	6/20-24 2.0
外套長の範囲 (cm)	12-24	14-25	12-20	9-24	13-21	10-20	13-21	12-17
外套長モードの範囲 (cm)	15-17	14-18	15-16	15,19	15-17	14-17	18	14